

平成20年度鹿屋市決算の連結による

「4つの財務諸表」を公表します



その② 連結行政コスト計算書

「行政コスト計算書」とは、一定期間の収益と、それを得るために要した費用を示して、その期間における利益(損失)を表にしたものです。

経常費用	66,229 百万円	【1年間に提供された行政サービス(資産形成に供された部分を除く)に要したすべての費用】
【内訳】		
人にかかるコスト(市職員給与、議員報酬など)	9,611 百万円	
物にかかるコスト(光熱水費、備品購入費、減価減却費、施設・設備の修繕費など)	13,178 百万円	
移転支出的コスト(国民健康保険、老人保健、介護保険への負担金など)	41,865 百万円	
その他のコスト(地方債の利子など)	1,574 百万円	



経常収益	16,175 百万円	【行政サービスの利用で市民の皆さんが負担する使用料・手数料など】
-------------	-------------------	----------------------------------

純経常行政コスト	50,053 百万円	【経常費用から経常収益を差し引いた純粋の行政コスト】
-----------------	-------------------	----------------------------

その③ 連結純資産変動計算書

「純資産変動計算書」とは、市の純資産(資産から負債を引いた残り)が、平成20年度中にどのように増減したかを表しています。

期首純資産残高	139,310 百万円	【平成19年度末純資産額】
----------------	--------------------	---------------

当期変動高	399 百万円	【平成20年度収支】
--------------	----------------	------------

【内訳】		
純経常行政コスト	△ 50,053 百万円	←
財源調達(市税、地方交付税、国・県補助金、臨時損益(災害復旧事業費など))	50,452 百万円	

期末純資産残高	139,709 百万円	【期首純資産残高に当期変動高を加えた平成20年度末の純資産額】
----------------	--------------------	---------------------------------



その④ 連結資金収支計算書

「資金収支計算書」とは、一定期間内の現金の増減と残高を示して現金の流れを把握し、市がどのような活動に資金を必要としているかを表しています。

期首資金残高	7,492 百万円	【平成19年度末資金額】
---------------	------------------	--------------

当期収支	508 百万円	【平成20年度収支】
-------------	----------------	------------

【内訳】		
経常的収支	8,849 百万円	
公共資産整備収支	△ 1,955 百万円	
投資・財務的収支	△ 6,333 百万円	
※繰上充用増減額 △ 54 百万円を加えています。		

期末資金残高	8,000 百万円	【期首資金残高に当期収支を加えた平成20年度末の資金額】
---------------	------------------	------------------------------



市では、市民の皆さんに市の財政状況をよりよく理解していただくため、国が推奨する新地方公会計制度に基づき、市や土地開発公社などすべての関連団体の会計を一つにまとめた「4つの財務諸表(貸借対照表、行政コスト計算書、純資産変動計算書、資金収支計算書)」を作成しました。

そこで、「4つの財務諸表」を公表し、その概要をお知らせします。

今後も、この「4つの財務諸表」を活用し、適正な財政運営に努めていきます。

【問い合わせ】市財政課 ☎ 0994-31-1126

※4つの表の数値は、表示単位未満を四捨五入しているため、合計が一致しない場合があります。

その① 連結貸借対照表(バランスシート)

「貸借対照表」とは、一時点において保有する資産、負債、純資産を記載したものです。

下表は、左に市の資産、右に負債と純資産が記載され、20年度末の財政状態がまとめられています。左右の合計額がそれぞれ天秤のようにバランスをとっていること、また、一時点の資産などの残高(=バランス)を表していることから「バランスシート」とも呼ばれます。

資産 210,671 百万円

【現在、市が保有している財産。現世代・次世代が提供を受ける行政サービスの総額】

【内訳】

公共資産(庁舎、学校、道路、橋など)	193,586 百万円
投資等(基金、積立金、有価証券、出資金など)	8,522 百万円
流動資産(税等の未収金や現金・預金など)	8,563 百万円(うち資金残高 8,000 百万円)

210,671 百万円

負債 70,962 百万円

【借入金(市債)など次世代が将来返済する必要がある債務】



純資産 139,709 百万円

【現世代がすでに負担済みで、次世代へ引き継ぐ正味価値総額】



合計

210,671 百万円

貸借対照表から分かる鹿屋市の状況

- 特徴1** 市民1人当たりの資産は約200万円、負債は約67万円
- 特徴2** 現在までの世代による、社会資本に対する負担割合は72%
※市町村の全国平均は約70%であり、鹿屋市は、次世代への負担が2%ほど全国平均よりも軽くなっています。

■次世代への負担を軽く

純資産が公共資産に占める割合であり、今まで市が整備してきた学校や道路、公園などの社会資本を、現在までの世代がどのくらい負担してきたかが分かります。鹿屋市では、社会資本のうち72%を、すでに現在までの世代で負担しています。

このことから、鹿屋市の未来の子どもたちへの負担は、比較的軽くなっていることが分かります。

■地方債返済への対応能力

仮に借入金(市債)を一括で返済した場合にどれだけの資金が準備されているかが分かります。鹿屋市では、借入金に充てる資金や基金・売却可能資産などが24%準備されています。

■純資産比率

純資産が総資産に占める割合であり、資産のうち、どの程度が正味の資産つまり市民の皆さんの持分であるかが分かります。

鹿屋市は66%となっており、市町村の平均値が60~70%となっていますので、その範囲内に位置しています。

